

辞書ツールは文法的正確さの産出につながるか  
—日本語学習者が日本語を書くための効果的な辞書使用を考えるために—

**How Dictionary Tools Help Japanese Language Learners to Write Grammatically  
Correct Sentences: Improving Effective Dictionary Use for Writing Japanese**

鈴木智美  
東京外国語大学

キーワード: 辞書アプリケーション、スマートフォン、オンライン辞書、電子辞書、文法

## 1. 本発表の目的

本発表者は、2015～2016年にかけて、計17名の中級・中上級レベルの日本語学習者（母語：イタリア語、スペイン語、ロシア語、チェコ語他全11言語）を対象に、日本語を“書く”際の辞書ツール（電子辞書、スマートフォンのアプリケーション、オンライン辞書等）の使い方について、短文作成と事後インタビューを通じて調査を行った。2015年の7名分の調査結果については、鈴木（2016）でその詳細を報告している。ここでは、2016年に新たに10名を対象として行った調査の概要を報告した上で、2015～2016年の調査結果の全体を、辞書ツールを使うことが「文法的に正確な文の産出につながっているか」という観点から改めてとらえ直す。

## 2. 日本語学習者の辞書使用に関する先行研究

近年は狭い意味での辞書に限らず、日本語の大規模コーパスを活用することで、日本語学習を支援する種々のツールも作成されており、その有効性についての検証も行われてきている<sup>1</sup>。

日本語学習者が実際に辞書等のツールをふだんどのように使っているのかという観点からは、これまで例えば鈴木（2012a, 2012b）では、日本国内の大学における留学生を対象に辞書使用についてのアンケートおよびインタビュー調査を行っており<sup>2</sup>、鈴木（2013）では、アンケート調査の自由記述回答の質的な分析を通じて、日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイントを抽出している。学習者に辞書を使用しながら文を書いてもらうことで、辞書使用の実際を調査したものとしては、鈴木（2014）および鈴木・高野（2015）では、中上級日本語学習者に600～800字程度の作文を書いてもらい、辞書使用状況を録画および事後インタビューにより確認している。調査参加者の母語はイタリア語、英語、ブルガリア語、トルコ語など様々で、使用ツールには電子辞書、スマートフォンアプリ、オンライン辞書が見られる。対象者と使用辞書の種類をより限定した調査としては、田中（2015）がある<sup>3</sup>。また、鈴木・高野（2015）で

<sup>1</sup> 例えば寺嶋（2016）では、日本語学習者のコロケーションの選択について、辞書のみを使用する方法と、コーパスを検索し共起語を示すレキシカルプロファイリングツールを併用した方法との比較考察が行われている。

<sup>2</sup> なお、東京外国語大学留学生日本語教育センター2016年度教育研究開発プロジェクト「留学生の辞書等の学習ツール使用についての実態調査」では、新たに今年度、留学生の学習ツール使用の状況について、オンラインアンケートによって調査を行う予定である（プロジェクト担当：鈴木智美ほか）。

<sup>3</sup> 上級レベルの中国人日本語学習者を対象に電子辞書の使用について調査を行っている。

は、学習者の辞書使用のスキルアップを目指したワークショップが行われ、その詳細が報告されている。アジア、欧州、中東、アフリカ等 18 の国・地域の計 29 名の中上級レベルの学習者を対象に「辞書使用について自覚的になる」こと、および「複数辞書検索」「対訳辞書の相互検索」「例文から考える」等の辞書の使い方の工夫を知ること为目标に課題が行われている<sup>4</sup>。

一方、日本語学習者の辞書使用とその産出される文の文法的な正確さという観点からは、鈴木 (2010) で、初中級レベルの学習者の作文において、学習者の母語あるいは第二言語からの直訳的な表現も含め、辞書使用が一因となり引き起こされていると思われる構文単位での不自然な表現が見られることが指摘されている<sup>5</sup>。また、鈴木・高野 (2015) でも、譲歩やヴォイスに関わる表現など、文構造全体に関わる文法項目は辞書で確認しにくい点が指摘されている<sup>6</sup>。鈴木 (2016) では、学習者が辞書から言葉を見つけていく際の特徴的なポイントの一つに「既有的語彙・文法知識を活用する」という方法が観察されたことが指摘されている<sup>7</sup>。文法に関わる事項でも、例えば動詞「住む」の補語として「東京 {に/で}」のいずれが的確かなど、助詞の選択などは辞書の用例から確認できる可能性は高いが、表現したい文について、文全体の構造を的確にとらえる必要のある場合は、注意が必要だと指摘されている<sup>8</sup>。また、田中 (2015) では、辞書の用例を参照することで的確な助詞選択についての文法情報が読み取り可能であるにもかかわらず、正用につながっていない例が見られたことが指摘されている<sup>9</sup>。

### 3. 調査の概要

鈴木 (2016) と同様に、辞書使用過程の「プロセス・メモ」をとりながら、短文レベルで空欄箇所にあてはまる適切な日本語表現を考えるという課題 (全 10 題) を行ってもらい、辞書使用の実際について調査を行った。調査時期は 2016 年 6 月～7 月で、事後インタビューも含め、一人あたりの調査時間は約 40 分～90 分であった。調査参加者は、中上級レベル<sup>10</sup>の日本語学習者 (留学生) 10 名 (母語: イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、チェコ語、ロシア語、トルコ語、ウズベク語、韓国語) である。使用している辞書ツール (複数回答可)<sup>11</sup>は、

<sup>4</sup> 本発表者は、さらに 2016 年 7 月に東京外国語大学全学日本語プログラム夏学期自律型学習コースにおいて、初中級から上級レベルの学習者 (延べ 21 名) を対象に辞書使用のスキルアップを目指した『辞書を使おう』ワークショップを行った。このワークショップの詳細については別稿にて報告する予定である。

<sup>5</sup> 例えば、「水の上できれいな反映があった」(→「水の上きれいに映っていた」「reflection」の訳か)、「きれいな見通しを享受した」(→「とても見晴らしがよかった」「enjoy」の訳か) という例が挙げられている。

<sup>6</sup> 「何をやっても」とすべきところを「何でもやったら」とした例、「(先生に) 教えてもらった/教えられた」が「教えてくれた」となっている例が挙げられている。後者は、「教える」「習う」という語彙的なヴォイス、「(～て) もらう/くれる」などの受益の補助動詞、さらに使役や受身についての知識が関わることで混乱が生じた可能性があり、辞書からこのような点を的確に確認することができなかったと思われるとしている。

<sup>7</sup> 「増やす」が「量」について用いられ、「関係」について述べるものではないという知識から、「?関係を増やす」ではなく「関係を強める」という表現の選択に結びついた例や、「\*うっかりに」にとは言えないことから「に」の空欄には「うっかり」は適切ではないという判断を行った例などが報告されている。

<sup>8</sup> 例えば、補助動詞 (「(～て) いく」など) の使い方や、用法によって動詞の自他が異なる場合 (「～ {が/を} 反映する」) に、辞書を使用しても文法的に的確な文が作れなかった例が観察されたとしている。

<sup>9</sup> 辞書に「商談が成立する」という用例があっても、「\*法律を成立する」としている例が見られたとしている。

<sup>10</sup> 日本語能力試験の N3 レベルに合格している人が 4 名、N2 レベルに合格している人が 2 名含まれている。そのほか 2 名が N2 を、1 名が N1 を受験したところであり、1 名は未受験であった。

<sup>11</sup> 電子辞書は「CASIO EX-word」(英和・和英、伊和・和伊、韓日・日韓、露日・日露、国語辞典)、スマートフォンアプリでは「imiwa?」「TAKOBOTO」「じしよ君」「Shirabe Jisho」「Tureng」(トルコ語・英語辞書)、オンライン辞書では「jisho.org」「Weblio 辞書」「英辞郎 on the web」「yahoo 辞書」(国語辞典、百科事典)「wadoku

電子辞書のみが1名、電子辞書とオンライン辞書の併用が4名、スマートフォンの辞書アプリケーションのみが2名、スマートフォンのアプリケーションとオンライン辞書の併用が3名、オンライン辞書のみはなかった。電子辞書とスマートフォンのアプリケーションは、それぞれオンライン辞書との併用が見られた(10名中7名)が、電子辞書とスマートフォン相互の併用はなく<sup>12</sup>、両者には相補的な使用分布の傾向があることが予想される。

#### 4. 調査結果についての考察：文法的正確さの観点から

2015年の調査と同様に、今回の調査においても、対応する対訳辞書(日英・英日辞書等)を相互に検索することや、対訳辞書と国語辞典を併用して語句の意味・用法を確認すること、またオンライン検索を行う際の検索語句の工夫などが行われていることが確認できた。

ここでは、2015～2016年の調査結果全体から、文法的な正確さにおいてつまずきの見られた例に焦点を絞り<sup>13</sup>、以下の表1にまとめて示す。表中には、当該の短文課題と、空欄箇所に入ると想定される語句の例を示している。問題文は、必要に応じて状況についての補足説明を( )内にごく簡潔に日本語で記して提示した。想定される回答語句に付した[ ]内の数字は、旧日本語能力試験における級レベルを参考として示したものである。調査参加者の回答例の冒頭に付した[15][16]は、それぞれ2015年、2016年の調査において見られた例であることを示す。右欄には、文法的なポイントを[ ]に、想定される的確な表現を「→」の次に示し、回答者の母語と使用辞書についての情報(「電子辞書/辞書アプリ/オンライン」)を補っている。

表1 2015～2016年の調査結果に見られた文法的正確さのつまずきの例

|  |  |        |       |
|--|--|--------|-------|
| ●【写真を見て、湖のようすを説明する】湖は、美しかった。鏡のような水面に、_____。<br><想定される回答>：景色 [3] が 逆さ [2] に 映って [2] いた など                           |  |        |       |
| [15] 景色が反映された  | [ヴォイス] → 景色が反映していた                     | スペイン語  | オンライン |
| [16] 景色の影が映しているのが見えた   | [動詞の自他] → 景色の影が映っているのが…                | ポルトガル語 | 辞書アプリ |
| ●【写真を見て、電車内のようすを説明する】隣の人との間を少し_____たら、あと二人すわれそうだ。<br><想定される回答>：詰める [2] など  |  |        |       |
| [16] 空い (たら)   | [動詞の自他] → 空け (たら)                      | 韓国語    | オンライン |
| [16] どい (たら)   | [構文] → この人が 少しどい (たら)                  | ドイツ語   | 辞書アプリ |
| ●計画が失敗した時、友人は、「計画には問題はない。失敗したのは、君 (=あなた) のやり方が悪いからだ」と、私に責任を_____。 <想定される回答>：押し付ける [級外]、なすりつける [級外] など              |  |        |       |
| [15] 移られた  | [ヴォイス] → 転嫁した/押し付けた (「移した」でも、意味的には不自然) | スペイン語  | 辞書アプリ |
| [16] 担った   | [ヴォイス] → (私に責任を) 担わせた                  | ロシア語   | 辞書アプリ |
| ●宿題の量が多すぎると、1つ1つにあまり注意を払わず (=注意しないで)、_____に、やってしまうことになるかもしれない。 (＝よく考えないで、これでいいと)<br><想定される回答>：適当に [3]、いい加減に [1] など |  |        |       |

(独和・和独辞書)「NAVER」(韓日・日韓辞書)が挙げられた。(特に記載のないものは英日・日英辞書である。)

<sup>12</sup> 2015年の調査では、電子辞書とスマートフォンの辞書アプリケーションの併用も7名中2名に見られた。

<sup>13</sup> 本発表においては扱わないが、「?関係を増やす (→深める)」「?内容に {進歩/進行/向上} がなかった (→進展)」「?ニュースを {配達/伝達} する (→配信)」等、意味的に不自然となった回答もいくつか見られた。

|   |  |       |                     |
|---|--|-------|---------------------|
| [15] あたふた   | [副詞の形態] → あたふたと (*あたふたに)               | スペイン語 | 辞書アプリ               |
| [16] 気にしないこと  | [否定形による付帯状況] → 気にせず                    | チェコ語  | 電子辞書                |
| ●防犯カメラの映像から、警察は犯人がその男だと_____することができた。(=犯人がだれか、はっきりわかった) <想定される回答>: 特定 [2]、確認[2]、確信 [1] など     |  |       |                     |
| [16] 判明   | [構文] → 警察は 犯人がその男だと判明した                | スペイン語 | 辞書アプリ <sup>14</sup> |
| [16] 割り出し   | [サ変動詞] → 割り出すことができた                    | イタリア語 | 電子辞書                |
| ●【「ニュースを自動的に配信してくれる」という文に続けて】忙しい人も、時間を_____できるので、便利だ。 <想定される回答>: 節約 [2] など (= <u>むだにしない</u> ) |  |       |                     |
| [16] 余す   | [サ変動詞/可能表現] → …ことが                     | トルコ語  | 辞書アプリ               |
| [16] 惜しむ  | [サ変動詞/可能表現] → …ことが<br>(「惜しむ」は意味的には不自然) | ドイツ語  | 辞書アプリ               |

表1を見ると、動詞の自他、サ変動詞、受身・可能表現のほか、構文全体のとらえ方においてつまずきが見られ、辞書の使用によってそれらがうまく解決されていないことがわかる。

## 5. 今後の課題

近年はスマートフォンのアプリケーションなど、学習に便利な種々のツールが開発されており、学習者の特に自律的な学習においてその活用は今後ますます進んでいくことだろう。一方、母語との比較などから日本語の構文的な特徴に注意を払うことをはじめ、ふだんの学習を通じて文法力・語彙力を養成していくことの重要性も再評価されるべきではないかと考えられる。

## 参考文献

- 鈴木智美 (2010) 「辞書の使用が引き起こす学習者の不自然な表現—『JLPTUFS 作文コーパス』の作文から見えてくること—」『2010 世界日語教育大会論文集』(DVD 版) 1436-0-1436-9
- 鈴木智美 (2012a) 「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 38 号 pp. 1-16
- 鈴木智美 (2012b) 『留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—言いたい日本語はどう見つけるか—』平成 22 年度 (2010 年度) ~平成 23 年度 (2011 年度) 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 研究成果報告書 (課題番号: 22652047、研究代表者: 鈴木智美) 東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木智美 (編著)
- 鈴木智美 (2013) 「日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイント—留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して—」『東京外国語大学論集』第 86 号 pp. 131-158
- 鈴木智美 (2014) 「中上級日本語学習者の作文過程における辞書使用—辞書使用の詳細を可視化するデータベース作成に向けて—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 40 号 pp. 15-33
- 鈴木智美 (2016) 「日本語学習者は辞書からどのように言葉を探すのか—中級・中上級日本語学習者 7 名の辞書使用についての調査事例報告から—」東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第 6 号 pp. 1-23
- 鈴木智美・高野愛子 (2015) 「中上級日本語学習者の辞書使用—作文時の辞書使用の詳細調査と文章表現のための辞書使用スキルアップを目指すワークショップ実践報告—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 41 号 pp. 137-156
- 田中信之 (2015) 「文章産出過程における辞書使用—中国人学習者の場合—」『日本語教育』162 号 pp. 113-128
- 寺嶋弘道 (2016) 「日本語学習者のコロケーションの選択とその考察—DIC 法と DIC-LP 法の比較から—」『日本語教育』163 号 pp. 79-94

<sup>14</sup> スマートフォンを使って、一般のウェブ検索サイト (google を使用) でも語句を入力し、検索を行っている。